

新政同志会視察研修所感

茂木 清七

1、松山市消防団の充実強化について 愛媛県松山市

松山市は、人口51万人の愛媛県の県都でもある街です。消防団員数も沼田市が756名で、松山市は2440名と三倍くらいの規模になりますが、その内の2107人が正規の団員数で、333名が機能別消防団員と言う方々です。

機能別消防団員とは、女性消防団員、大学生消防団員、事業所消防団員、郵政消防団員、の4つ団体から構成されています。消防団員のなり手不足から産まれた発想で、今やそちらの方が増えてきているようです。



松山市には、短大と合わせて4つの大学があるそうです。その辺も、大学生消防団員確保に繋がっている様です。また、大学生においては、大学生等消防団員活動認証制度と言うのがありまして、その認証状及び証明書の交付が受けられると、市の職員や消防署等の就職活動にはプラス査定になるそうです。現在までに25名の方が利用されたそうです。

また、まつやまだん団プロジェクト (消防団員応援事業) がありまして、IC機能付き消防団員証を発行し、消防団員は割引や優遇などが受けられるそうです。加盟している事業所は306事業所にも上るようです。

沼田市の消防団員も、ドローンの操縦の資格を取るなど新しい事にもチャレンジしておりますが、松山市の機能別消防団員の制度を是非とも取り入れて、地

域の安心・安全はみんなで守ると言う事を、認識して頂ければと思います。
私たち、新政同志会のメンバーは全力で進めて行きたいと思っています。

2、大洲城天守閣復元事業 愛媛県大洲市

愛媛県大洲市は人口 43000 人の 3 次産業が盛んな町です。大洲城天守閣復元に向けて、どの様に進めたのか研修させて頂きました。

元々、台所櫓と高欄櫓は国の重要文化財に指定されていたそうです。その 2 つを天守閣でつなぐという計画で始まったそうです。復元に向けて、資料は沢山残っており、木組みの模型・明治時代の写真・城絵図など数多くの資料があり、それを元に復元し天守閣に観光客が入場出来る様にしたいと計画されたそうです。



平成 6 年に「大洲城天守閣再建基金条例」を設置。多くの市民より募金活動を行い 5 億 2800 万円が集まり、その後は木材の寄付も募り事業の大きな PR にもなったようです。市民からの寄付については、地区の区長さんからかなりの協力を頂いたと伺いました。瓦も裏に名前を書く事で 2000 円の寄付を頂く、平成 10 年より基本設計に入り、平成 13 年～16 年度で本体工事終え完成されたそうです。

総事業費は 15 億 2500 万円（内市の一般会計は 8161 万円）本格的な木造建築で 4 階建ての建築基準法の許可を受けるのが大変だったと伺いました。

オープン当初は、8 万 6 千人と好調でしたが最近は 3 万人台まで落ち込んだそうです。今はまだそんなにかからないそうですが、今後のお城の修繕費などが大変になるといっておられました。

結論から申し上げますと、沼田市もお城再建のお話がありますが、作った後の

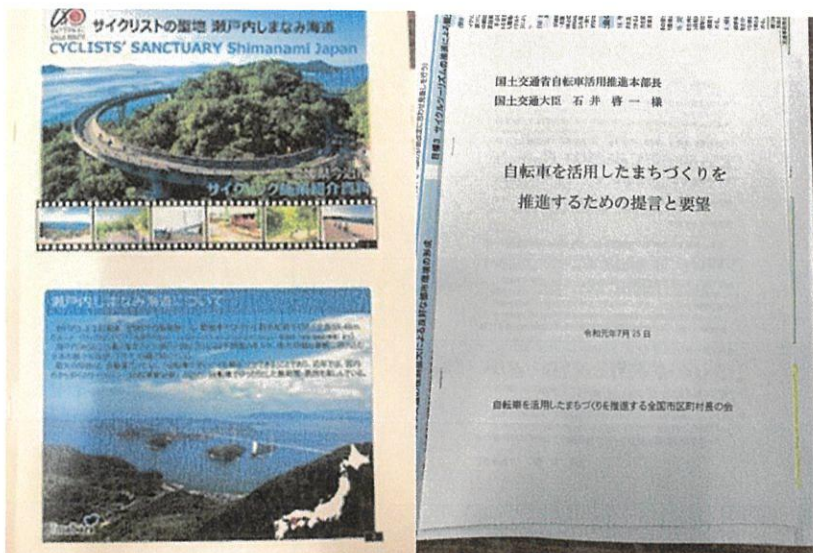
事も含めて慎重に検討されるべきと感じました。

3、自転車を活用したまちづくり 愛媛県今治市

サイクリストの聖地「瀬戸内しまなみ海道」、四国の今治市と広島県尾道市との間の、瀬戸内の点在している島々とを結ぶ橋を渡るといふサイクリングロードで全長は約 70 km のコースで海を見たり、島を見たりとのんびりと景色を眺めながら楽しんで頂く事が目的だそうです。

平成 30 年度のサイクリング客数は 332,683 人（1 日平均 9 1 1 人）と年々来客数は伸びているそうです。また、コンビニエンスストアや商店等において休憩所（サイクルオアシス）の整備、路側の白線の隣に 20 cm のブルーライン、及び距離表示、路肩の拡幅等の整備を行い、安心して自転車が楽しめる工夫もされている。

本来は、橋の自転車通行料金（500 円）がかかるそうですが、年間自転車の通行料だけで約 2000 万円がかかるようです。橋の歩道に広告の看板を設置するなど広告料で約 1000 万円を賄っているそうです、残りの 1000 万円は県と市で負担しているそうです。つまり、サイクリストは無料で橋を渡ることができと言う事です。国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」は、隔年で開催されエントリーは毎回増えていると言う事でした。その為、宿泊客も増えて経済効果も十分あるそうです。2021 年秋には、サイクリストの方々も安心して宿泊出来るホテルも建設予定との事でした。



沼田市には海はありませんが、緑豊かな山々、日本一の河岸段丘、など魅力あふれる自然を満喫していただくために、沼田市でもこの様な大会を望むものです。まずは、市の職員で自転車が好きな人を集めて、小さい大会でも良いので行動を起こしてはと思います。我々の会派には2人の自転車愛好者がいますので、そこから始めてはと考えます。

全体を通して、今回はとても有意義な視察が出来、行程を組んで頂いて議会事務局の皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

会派名	新政同志会	氏名	山宮 敏夫
1	期 日	令和2年1月29日(水)	
2	調査事項	愛媛県松山市「消防団の充実・強化及び団員確保に向けた取り組みについて」	
3	所 感	調査後の考察(感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など)を記入	
<p>【所感】</p> <p>愛媛県松山市は人口511,649人、面積429.40km²、世帯数249,084世帯、沼田市と面積こそ似通っていますが、愛媛県庁所在地であることから人口は比較になりません。しかし、人口に対する消防団員の割合では沼田市の方が上回っています。沼田市含め、全国的に大きな問題になっている団員不足やなり手不足は松山市も同様のようで、単に人口割合でなく昔からの消防団の規模や団員数との関係が多いのかと考えます。</p> <p>松山市消防団では、“機能別消防団員”を配置、郵政消防団員「ファイヤーポストマンチーム」、大学生消防団員「大学生防災サポーター」、事業所消防団員、島しょ部女性消防、が災害対応や啓発活動、更には実際の消火活動にも従事しています。また、有資格者の選抜による機動重機消防団員も配置し土砂災害などに迅速かつ効果的な体制を整備しているほか、消防団員応援事業も展開、“まつやまだん団プロジェクト”では、IC機能付消防団員証を発行し、消防団員としての自覚を持たせる意味を含め、割引・優遇制度を実施しています。また、消防団協力事業所表示制度や大学生等消防団員活動認証制度も実施し消防団の強化並びに消防団員の拡充を図っています。</p> <p>本市における消防団並びに消防団員の状況も松山市と同じで、災害対応やにない手不足は重要な課題であります。機能別消防団員については本市においても検討をしているようですが、日中地元にはないサラリーマン消防団員の活動方法の検討や女性消防団員の拡充、引退した元消防団員の予備役的な活用は早急に検討していただきたいと考えます。また、消火活動は元より、昨今多発している災害にも対応していく必要が最重要課題と思いますので、松山市の様な機動重機消防団員や特殊技能を有する消防団員の掘り起こしや人材育成も急務と考えます。</p> <p>このようなことから、新政同志会として当局に働きかけをおこなっていきたいと思います。</p>			

会派名	新政同志会	氏名	山宮 敏夫
1	期 日	令和2年1月30日(木)	
2	調査事項	愛媛県大洲市「大洲城復元事業について」	
3	所 感	調査後の考察(感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など)を記入	
<p>【所感】</p> <p>愛媛県大洲市は人口42,655人、面積432.2km²世帯数19,835世帯と、ほぼ本市と同様です。</p> <p>復元前の大洲城においては、石垣や天守台、櫓が残存しており、下台所は県の重要文化財であり、県の史跡認定をうけ、台所櫓・南隅櫓・高欄櫓・芋綿櫓は国指定重要文化財であります。城郭は梯郭式平山城、天守は四層四階、明治28年に取り壊され平成16年に復元されました。明治初期まで残存していたことから、写真などの資料も残っており江戸期に造られた天守雛形と呼ばれる木組模型(軸組模型)が存在していたため、詳細に至る木造での復元が可能で安価な費用及び短工期で建築されたものと考えます。このような点が沼田城とは大きく異なる点です。</p> <p>しかし、復元に至る過程や復元方法や手法は大変参考になるもので、材木は地場産をメインに長野県木曾地方から調達し、建築資材などは寄付していただく手法をとり、どこの部材を誰が寄付したか分かるようなポップを天守内に掲示しています。復元に当たっては行政主導で始まり官民協同で復元事業が完工したことから、本市においても現在実施中の発掘調査を完了させ、官民一体の計画の再考を望むものであります。</p> <p>更に沼田城においては、石垣や天守台及び詳細な資料が残っていないことから、史跡認定や重要文化財認定の取得は大変難しいと考えられるため、現在一般的に知られている木造五層天守の復元、三層櫓の復元や城郭全体の復元などを含めた沼田公園全体の構想の検討を強く望みます。</p>			

会派名	新政同志会	氏名	山宮 敏夫
1	期 日	令和2年1月31日(金)	
2	調査事項	愛媛県今治市「サイクルシティ構想について」	
3	所 感	調査後の考察(感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など)を記入	
<p>【所感】</p> <p>愛媛県今治市は人口158,182人、面積419.14km²、世帯数76,536帯と、やはり面積は本市と似通っていますが、古くから瀬戸内海の海上交通の要所であり、平安時代から国府が置かれ、江戸時代には今治城下町として栄え、愛媛県松山市に次ぐ人口を有し世帯数とも大きく上回っています。</p> <p>愛媛県今治市サイクルシティ構想、広域観光推進計画では4つの基本目標、①サイクルステーション構想、②サイクルツーリズム構想、③おもてなし構想、④しまなみプロモーション構想プラス広域観光資源との連携により、今治市から尾道市を結ぶ瀬戸内「しまなみ海道」には年間30万人にも及ぶサイクリストが訪れ、今やサイクリストの聖地と呼ばれるまでになっています。また、様々なサイクリスト向けサービスの提供や「サイクリングしまなみ」の様な国際サイクリング大会(ファンライド)の開催など、官民連携により国内外から多くの方が訪れるまでになっています。</p> <p>本市においても、特に利根郡地域との広域観光は必須と考えサイクルシティ構想の取り組みは大いに参考になるものです。</p> <p>また近年では、健康寿命を延ばすためやライフワークとしてスポーツを楽しむ人々が増加し、様々な形でスポーツ人口が増加しています。そして、観光と結び付けたスポーツイベントを開催して町おこしにしている地域が多く存在します。本市においては豊富な大自然や観光地があり大型観光スポーツイベントの開催は最大限に必要であると考え、検討委員会の設置などの行動を起こすべきであると強く考えます。</p> <p>私自身もマラソンやサイクリングやスイム、トライアスロンに登山と多くのスポーツを楽しんでいる中で、沼田市を観光スポーツイベントで盛り上げて行きたいと思います。</p>			